

本学学生の生活実態調査 II

— 消費行動の実態に着目して —

Fact-Finding Research into Our Junior College Students on Daily Life II

松原勝敏 田中美季 坪田雄二
山口修司 湯川秀樹

はじめに

経済社会の高度化・多様化につれて、消費者を取り巻く社会的状況は大きく変化した。消費者は、あふれる商品やそれに関する情報の量にたいして十分な対応ができなくなっている状況にあると言われている。そのために、今日では、「経済行為の主体としての基礎的な知識を身につけ、主体的な責任能力をもった消費者を育成する」必要性が指摘されている。

そこで、本研究では、実社会へ出ていくことを目前に控えている本学学生を研究対象として、本学の学生が主体的な消費者となっているかどうかを明らかにするための一段階として、本学学生の消費行動の実態を明らかにしたい。

1. 調査方法

調査の概要は、以下の通りである。

被調査者 研究 I 参照。

調査期間 研究 I 参照。

調査手続 研究 I 参照。

調査項目 次頁参照。

あなたの消費生活に関しておたずねします。

1. あなたは、お金の支出入について記録をとっていますか。
 1. 完璧に記録している
 2. とくどき記録している
 3. まったく記録していない
2. あなたは、買物をした時にもらえる各種のサービス券・スタンプ類を収集していますか。
 1. すべて収集している
 2. ほとんど収集している
 3. 全く収集していない
3. あなたは、何か購入の目的をもって積み立てをしていますか。
 1. している
 2. していない
4. あなたは、短大に入学してから今日までに、分割払いで商品を購入したことがありますか。
 1. ある
 2. ない
5. あなたはクレジットカードをもっていますか。
 1. 持っている
 2. 持っていない
6. あなたは、買物に行く時に、一緒に行く人があれば誰と頻繁に行っていますか。
 1. 親
 2. きょうだい
 3. 祖父母
 4. 同性の友人
 5. 異性の友人
 6. 一人
7. あなたはバーゲンに出かけることがありますか。
 1. 必ず出かける
 2. 商品によっては出かける
 3. どちらとも言えない
 4. あまり出かけない
 5. 出かけない
8. あなたは、商品の購入にあたって迷いが生じた時に、誰に相談しますか。
 1. 親
 2. きょうだい
 3. 祖父母
 4. 同性の友人
 5. 異性の友人
 6. 相談せずに自分で決める
9. あなたが1カ月に自由に使うことのできるお金はどのくらいありますか。
(下宿生の方は、家賃、光熱費等生活上不可欠な費目を除いてお答えください)
 1. 10,000円未満
 2. 10,000円以上20,000円未満
 3. 20,000円以上30,000円未満
 4. 30,000円以上40,000円未満
 5. 40,000円以上50,000円未満
 6. 50,000円以上60,000円未満
 7. 60,000円以上70,000円未満
 8. 70,000円以上80,000円未満
 9. 80,000円以上90,000円未満
 10. 90,000円以上100,000円未満
 11. 100,000円以上
10. あなたが1カ月に得るお金の主な収入源は次のどれですか。
 1. おこづかい
 2. アルバイト
 3. その他()
11. あなたは、1カ月のおこづかいの金額に満足していますか。
 1. 大いに満足
 2. まあ満足
 3. 普通
 4. やや不満
 5. 大いに不満
 6. もらっていない
12. あなたの財布の中には、普段いくらぐらい入っていますか。
 1. 1,000円未満
 2. 1,000円以上3,000円未満
 3. 3,000円以上5,000円未満
 4. 5,000円以上10,000円未満
 5. 10,000円以上20,000円未満
 6. 20,000円以上30,000円未満
 7. 30,000円以上

13. あなたは、次にあげる項目それぞれについてどのくらいお金をつかいますか。

	よく つか う		とつ き ど き う		まっ か わ た な い
被服・履き物	1	—	2	—	3
化粧品	1	—	2	—	3
アクセサリー	1	—	2	—	3
バッグ	1	—	2	—	3
美容・エステティック	1	—	2	—	3
菓子	1	—	2	—	3
食料品	1	—	2	—	3
書籍・雑誌	1	—	2	—	3
通信	1	—	2	—	3
映画・コンサート	1	—	2	—	3
レンタルCD・レンタルビデオ	1	—	2	—	3
交通費（車・バイクの維持費を含む）	1	—	2	—	3
月謝（花・お茶・英会話等）	1	—	2	—	3
旅行・ドライブ	1	—	2	—	3
ゲーム	1	—	2	—	3

その他よくつかうものがあれば（ ）内に記入してください。

（

14. あなたは、あなた自身が流行に関心がある方だと思いますか、それとも関心がない方だと思いますか。

1. 大いに関心がある 2. やや関心がある 3. どちらともいえない
4. やや無関心である 5. 無関心である

15. あなたは、あなた自身を浪費家であると思いますか、それとも、節約家であると思いますか。

1. 浪費家 2. やや浪費家 3. どちらとも言えない
4. やや節約家 5. 節約家

16. あなたは、あなた自身の消費生活に満足していますか。

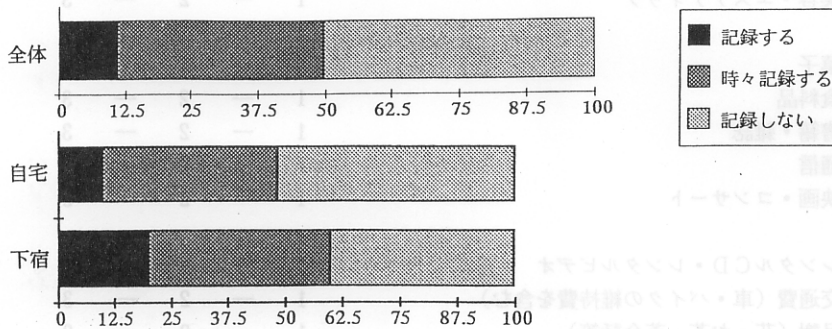
1. 大いに満足 2. まあまあ満足 3. 普通
4. やや不満 5. 大いに不満

〈結果と考察〉

本学学生の消費行動の実態に関する調査の結果については、まず第一にそれぞれの調査項目における単純集計の結果を概観し、必要に応じて学科・学年・住居形態等の学生の属性による比較を行う。その後に、複数の質問項目を関連させて、いくつかの特徴的な点を指摘するとともに若干の考察を加えたい。

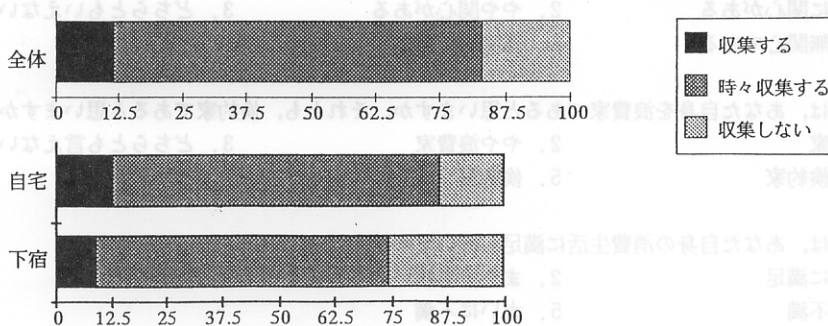
A 各調査項目における単純集計結果

1. あなたは、お金の支出入について記録をとっていますか。



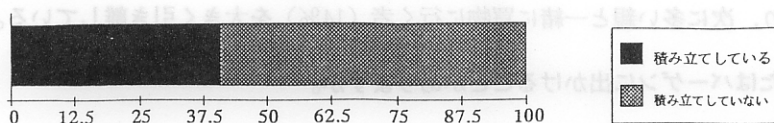
個人で金銭出納簿をつけているかどうかについては、学科や学年による相違はあまりみられず、ほぼ平均して図に示すような割合となった。ただ、自宅生に較べて、生活を自分で管理しなければならない下宿生の方が、きちんと支出入の記録をつけている割合が10%ほど高く、その割合は20.1%である。

2. あなたは、買物をした時にもらえる各種のサービス券・スタンプ類を収集していますか。



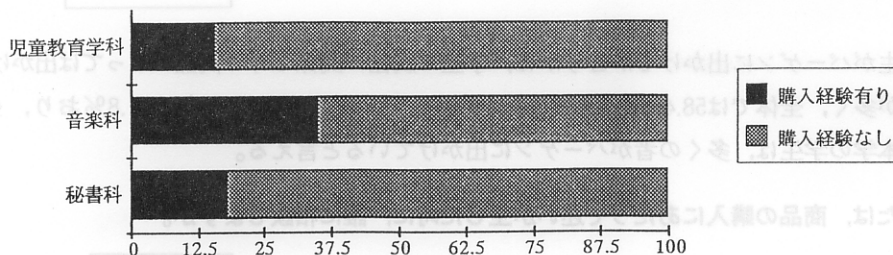
サービス券・スタンプ類の収集については、学科や学年による相違はさほど見られなかったが、自宅生よりも下宿生の方が全く収集していない者の割合が10%ほど高くその割合は25.5%であった。生活費のうえでは制約のありがちな下宿生の方がサービス券やスタンプ類を収集している割合が高いと予想していたが、結果はその逆であった。

3. あなたは、何か購入の目的をもって積み立てをしていますか。



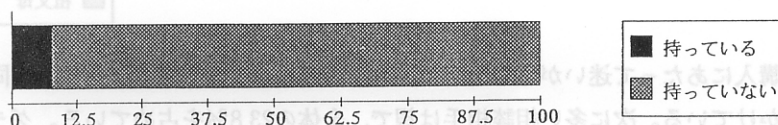
この質問項目については、学科、学年、自宅・下宿の別なく、積み立てをしている者が約4割を占めていた。過半数に満たないとはいえ、本学の学生のなかで多くの者が、何か多少高額な商品について具体的な購入の希望を持っていることがわかる。

4. あなたは、短大に入学してから今日までに、分割払いで商品を購入したことがありますか。



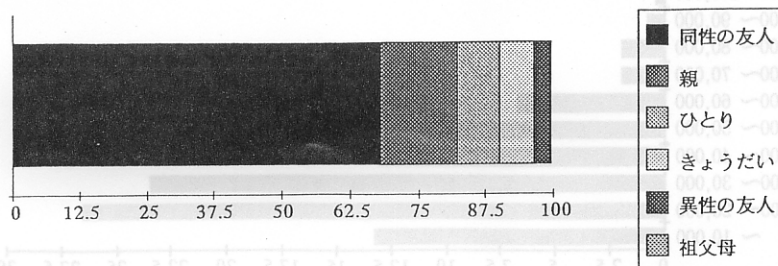
本学学生全体の17.1%が、分割払いによる商品の購入経験があるが、学科別には音楽科が他学科に比べて20%程高く、34.6%の者が分割払いの経験をもつ。これは、楽器の購入や発表会用の衣装等比較的高額な商品の購入をする必要性によるものと思われる。

5. あなたはクレジットカードを持っていますか。



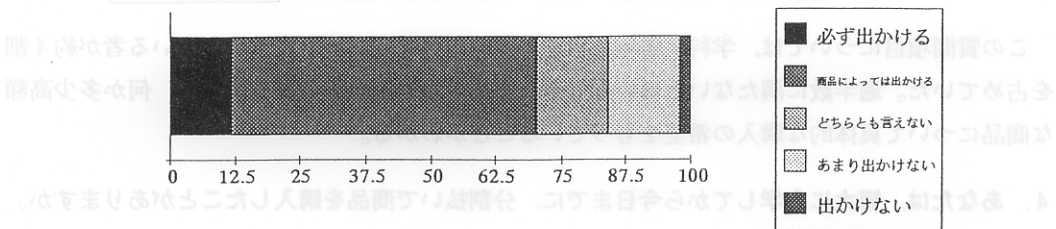
クレジットカード所有の有無については、学生の属性による相違はさほどみられず、クレジットカードを所有しているものは、本学学生全体の7.7%であった。未成年者が多く、学生という身分を考えると妥当なところかもしれない。

6. あなたは、買物に行く時に、一緒に行く人があれば誰と頻繁に行っていますか。



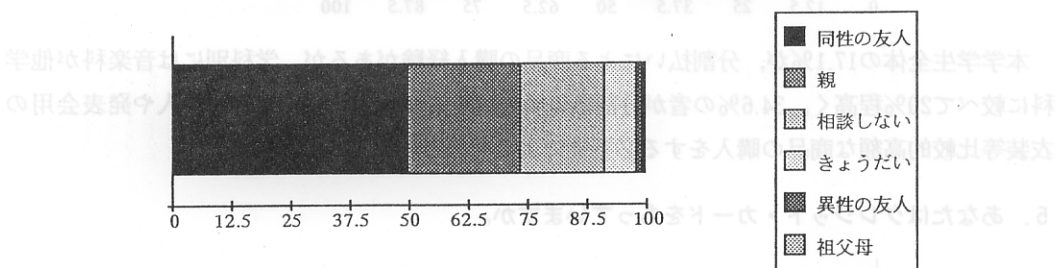
買物と一緒に行く人は、学生の属性に関係なく圧倒的に同性の友人が多く、全体では68.1%を占めており、次に多い親と一緒に買物に行く者（14%）を大きく引き離している。

7. あなたはバーゲンに出かけることがありますか。



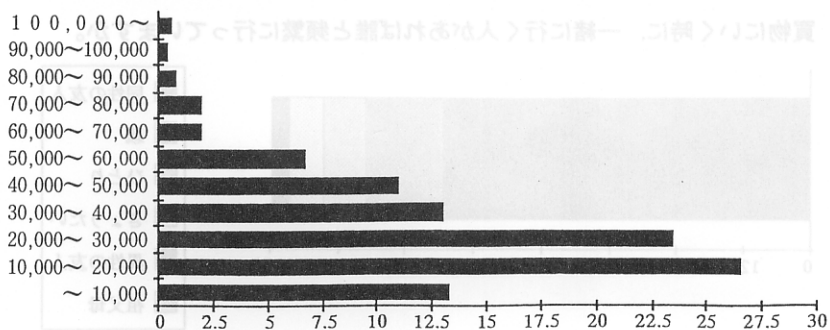
本学学生がバーゲンに出かけるかどうかは、学生の属性に関係なく「商品によっては出かける」と言う者が多く、全体では58.4%を占めていた。「必ず出かける」と言う者は11.8%おり、全体として、本学の学生は、多くの者がバーゲンに出かけていると言える。

8. あなたは、商品の購入にあたって迷いが生じた時に、誰に相談しますか。



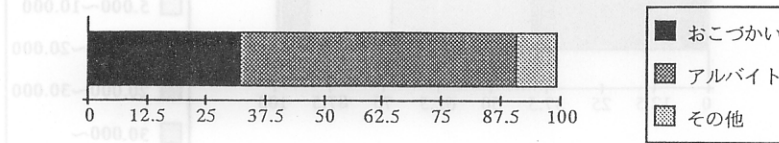
商品の購入にあたって迷いが生じた時に、本学の学生は、全体で49.4%の者が同性の友人に相談をもちかけている。次に多い相談相手は親で、全体の23.8%を占めている。グラフにはしていないけれども、親と離れて生活している下宿生は、同性の友人に相談をもちかける割合が自宅生に較べて10%程高く57.3%を占めている。

9. あなたが1カ月に自由に使うことのできるお金はどのくらいありますか。



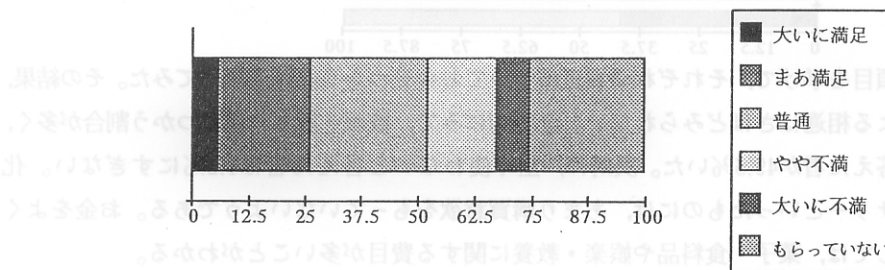
本学の学生が1カ月に自由に使うことのできる金額は、約半数の学生（49.9%）が10,000円から30,000円の範囲にある。また、50,000円未満の範囲で区切れば、87.1%の学生がそこに含まれる。学生の属性による相違はさほどみられない。

10. あなたが1カ月に得るお金の主な収入源は次のどれですか。



学生の主な収入源としてはアルバイトが最も多く全体の58.3%を占めている。学科別にみても、アルバイトを主たる収入源とする学生は秘書科が最も多く62.7%を占めている。住居形態別にみると、当然のことながら下宿生は親からの仕送りを主たる収入源とする者が48.6%を占めるが、アルバイトを主たる収入源とする学生も33.6%おり、学生生活を送る上で必要な経費をアルバイトで補っている学生が多いことがわかる。学年別にみても、1年生と2年生では、就職活動や卒業研究等で2年生の方が忙しいはずであるが、アルバイトを主たる収入源とする者の割合は、1年生が56.7%、2年生が61.7%であり、2年生の方が、アルバイトを主たる収入源とする者が多くなる。反対におこづかいを主たる収入源とする者は1年生が35.9%、2年生が29.6%となっている。学生生活を送るうえでの慣れが、このような結果をもたらすのであろうか。

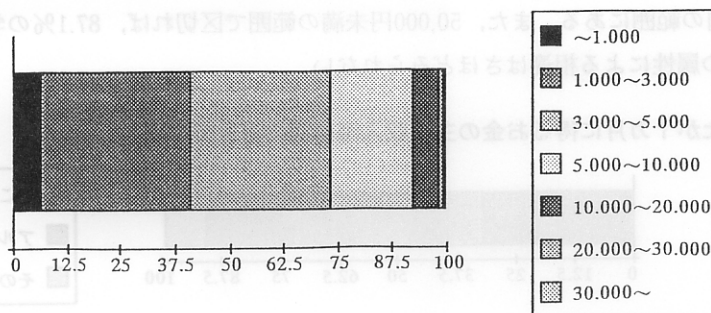
11. あなたは、1カ月のおこづかいの金額に満足していますか。



親からのおこづかいをもらっていないと答えた学生は、学生全体の25.2%である。全体として親からのおこづかいに多少とも不満を感じている者は22.5%であり、ほぼ半数の学生が親からのおこづかいに不満を感じていないようである。

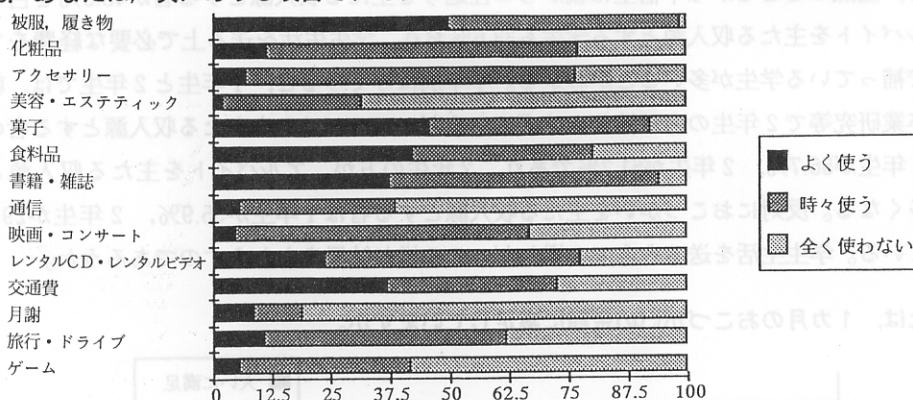
これを、学科及び学年別にみてもさほど相違はみられないが、住居形態別にみても、下宿生は自宅生よりもおこづかいに満足感をおぼえ、不満感は少ない。

12. あなたの財布の中には、普段いくらぐらい入っていますか。



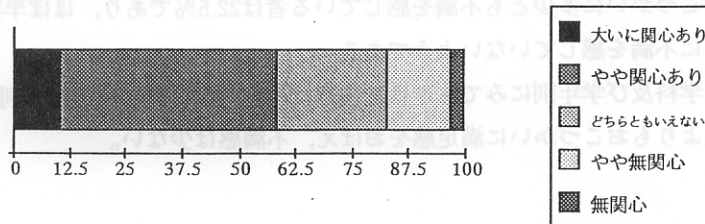
全体的に、本学生は高額のお金を持ち歩くことが少ないようである。学生が普段持ち歩く金額は、全学生の92.7%が10,000円未満である。学生の属性による相違はみられない。

13. あなたは、次にあげる項目それぞれについてどのくらいお金をつかいますか。



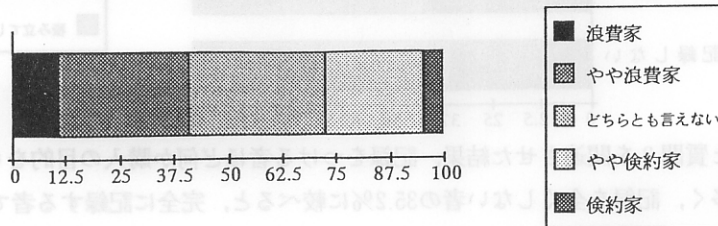
いくつかの項目を挙げて、それぞれの項目についてお金をつかう頻度を調べてみた。その結果、学生の属性による相違はさほどみられない。全体的にみて、被服・履き物等につかう割合が多く、よくつかうと答えた者が49.6%いた。反対に、全く使わないと答えた者は1.2%にすぎない。化粧品やアクセサリーといったものには、あまり購買意欲をもっていないようである。お金をよくつかう項目としては、菓子・食料品や娯楽・教養に関する費目が多いことがわかる。

14. あなたは、あなた自身が流行に関心がある方だと思いますか、それとも関心がない方だと思いますか。



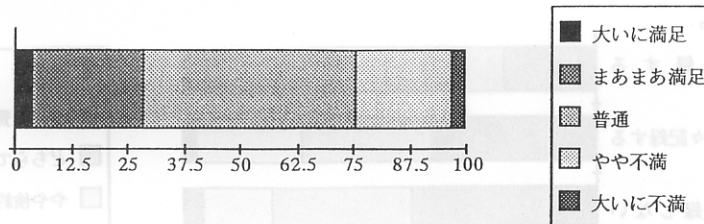
流行に多少なりとも関心をもっている学生は、全体の58.4%をしめており、無関心派の16.9%を大きく引き離している。全体的にみて、流行に関心のない学生は少ないようである。学生の属性による相違はみられない。

15. あなたは、あなた自身を浪費家であると思いますか。それとも、倹約家であると思いますか。



全学生の40.8%が多少とも無駄遣いをしているという意識を持っている。自分自身を倹約家と考える学生は27.3%である。学生の属性による相違はみられない。

16. あなたは、あなた自身の消費生活に満足していますか。



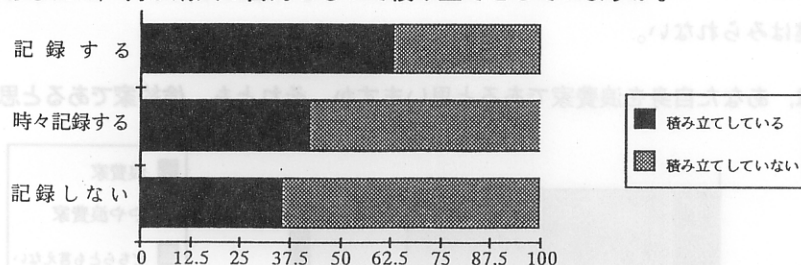
全体的にみて、24.3%の学生が、自分自身の消費生活について不満を感じているが、反対に、75.7%の学生は、自分自身の消費生活に不満を感じてはいない。学生の属性による相違はあまり大きくない。

つぎに、複数の質問項目を関連させて、学生の消費行動の実態について考えていきたい。
B.

1. 学生の消費行動における堅実性について、学生がお金の支出入の際に記録をつけているかどうかを手がかりにして、「完全に記録している」者、「ときどき記録している」者、「まったく記録していない」者の3つのグループが、消費行動においてどのような類似性があるかどうかを、他の項目と関連させることによって考察した。

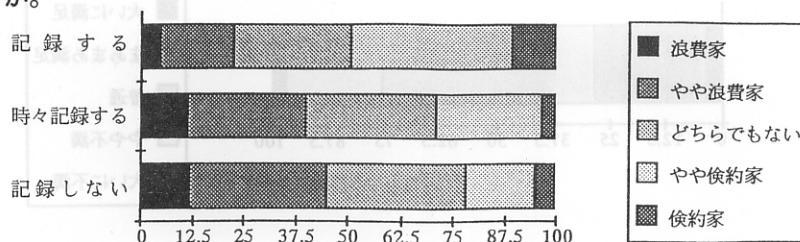
比較的特徴的な結果が現われた組合せを列挙すると次の通りとなる。

- (1) 1. あなたは、お金の支出入について記録をとっていますか。
 3. あなたは、何か購入の目的をもって積み立てをしていますか。



質問1と質問3を関連させた結果、記録をつける者ほど何か購入の目的をもって積み立てる者の割合が多く、記録を全くしない者の35.2%に較べると、完全に記録する者で積み立てをする者は62.8%と、ほぼ倍の数値を示している。

- (2) 1. あなたは、お金の支出入について記録をとっていますか。
 15. あなたは、あなた自身を浪費家であると思いますか。それとも、節約家であると思いますか。



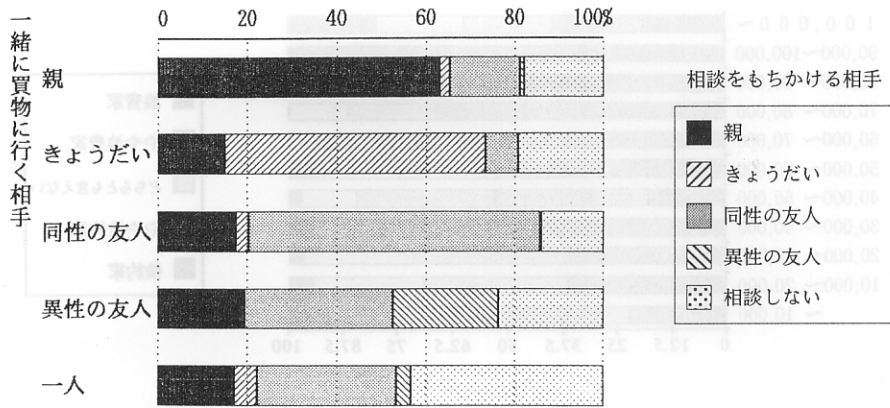
質問1と質問15を関連させると、完全に記録する者ほど浪費家意識が低く、「浪費家」あるいは「やや浪費家」と答えた者をあわせると22.5%である。反対に、節約家意識は強く、「やや節約家」あるいは「節約家」と答えた者を合わせると48.9%に達する。他方、記録をしない者ほど浪費家意識が強く、「浪費家」あるいは「やや浪費家」と答えた者は45%おり、反対に節約家意識は弱く、「やや節約家」あるいは「節約家」と答えた者は、21.3%である。

しかしながら、消費行動の実態について、その他の項目においては数値の上で顕著な差を見いだすことはできなかった。お金の使い方について、更に綿密な調査を経なければ結論づけることはできないが、支出入の記録をつけることによって節約家として意識は生じるかもしれないが、それが直接に堅実なお金の使い方に関係しているかどうかは判断できないものと思われる。

2.

6. あなたは、買物に行く時に、一緒に行く人があれば誰と頻繁に行っていますか。

8. あなたは、商品の購入にあたって迷いが生じた時に、誰に相談しますか。

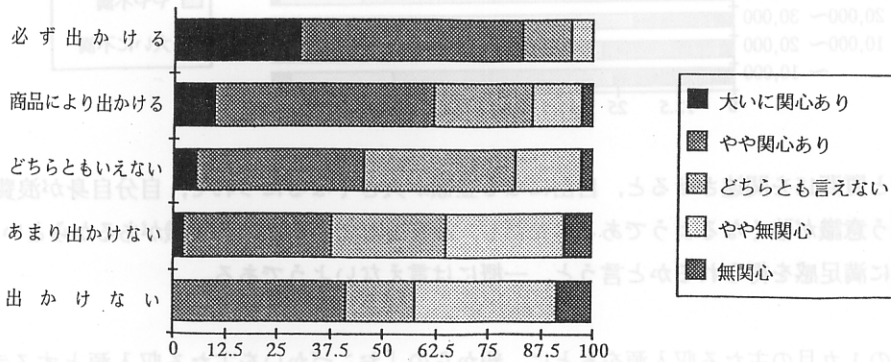


質問6と質問8を関連させたところ、本学の学生においては、一緒に行物に行く相手と買物に迷った時の相談相手が大きく関連していることがわかる。ただ、親と一緒に買物に行く者を除けば、親と相談をする学生は常に20%未満である。

3.

7. あなたはバーゲンに出かけることがありますか。

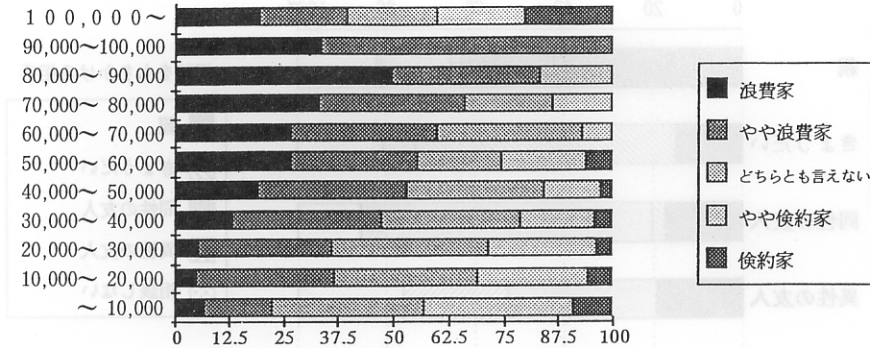
14. あなたは、あなた自身が流行に関心がある方だと思いますか、それとも関心がない方だと思いますか。



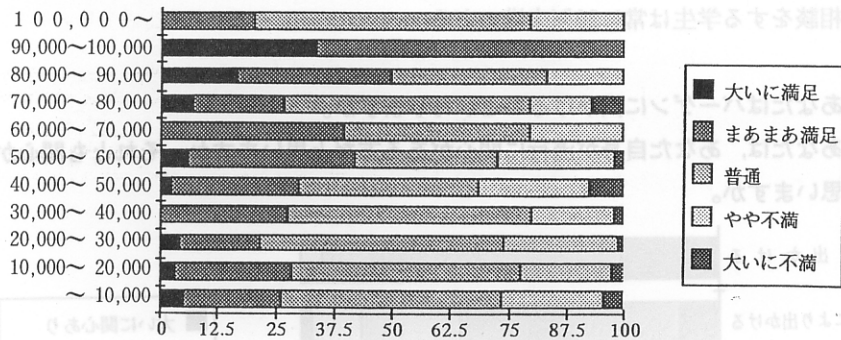
質問7と質問14を関連させると、バーゲンにでかける者ほど流行への関心度が高いことがわかった。

4.

9. あなたが1カ月に自由に使うことのできるお金はどのくらいありますか。
15. あなたは、あなた自身を浪費家であると思いますか。それとも、節約家であると思いますか。



9. あなたが1カ月に自由に使うことのできるお金はどのくらいありますか。
16. あなたは、あなた自身の消費生活に満足していますか。

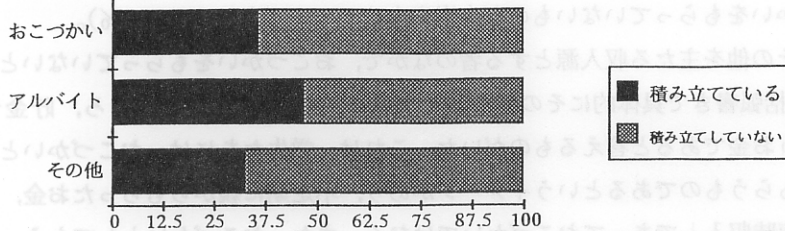


質問9と質問15を関連させると、自由になる金額が大きくなるにつれて、自分自身が浪費家であるという意識が強くなるようである。ただし、浪費をしているという意識があるからといって、消費生活に満足感を得られるかと言うと、一概には言えないようである。

5. 学生の1カ月の主たる収入源をもとに、親からの「おこづかいを主たる収入源とする者」、「アルバイトを主たる収入源とする者」、「その他を主たる収入源とする者」の3つのグループに分け、他の項目と関連させることによってそれぞれのグループの特徴を考察したい。

(1) 10. あなたが1カ月に得るお金の主な収入源は次のどれですか。

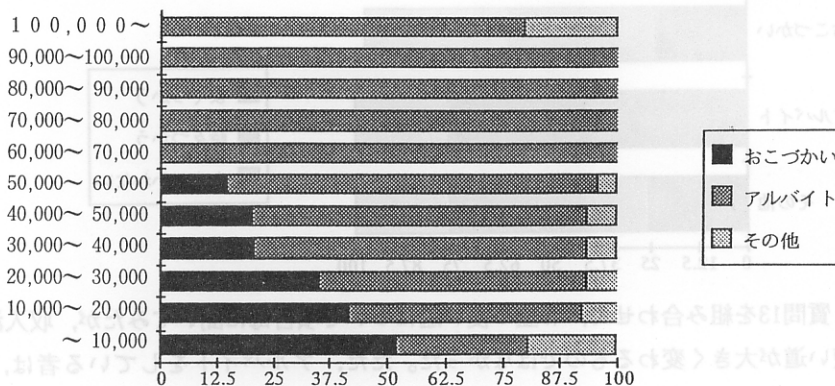
3. あなたは、何か購入の目的をもって積み立てをしていますか。



質問10と質問3を関連させた結果、アルバイトをしている者のなかで積み立てをしている者は、他の項目と比較すると10%以上多く、アルバイトをしている者は、何か購入の目的をもってアルバイトをしている傾向が若干みられる。

(2) 10. あなたが1カ月に得るお金の主な収入源は次のどれですか。

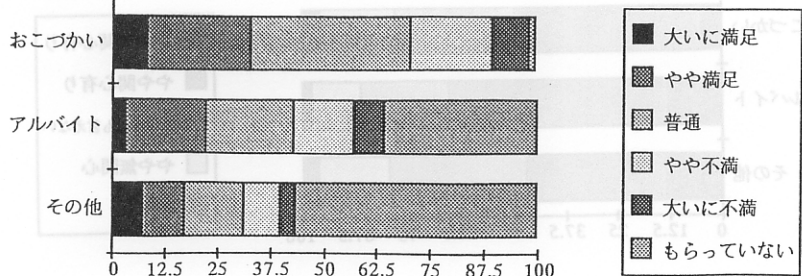
9. あなたが1カ月に自由に使うことのできるお金はどのくらいありますか。



質問10と質問9を関連させた結果、学生が1カ月に自由につかうことのできる金額は、高額になればなるほどアルバイトによって得たお金の割合が高くなり、60,000円を越える高額になると、アルバイトによって得た収入が主たる収入源であると答えた者が100%となった。

(3) 10. あなたが1カ月に得るお金の主な収入源は次のどれですか。

11. あなたは、1カ月のおこづかいの金額に満足していますか。



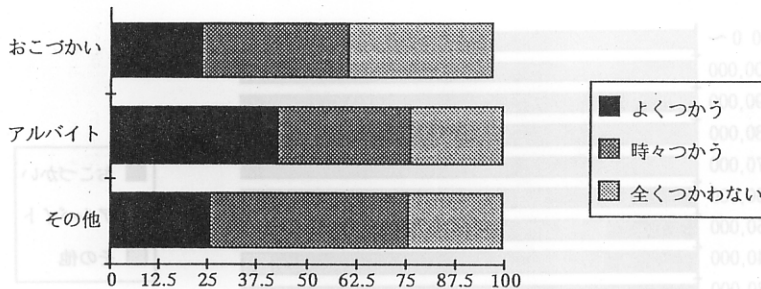
質問10と質問11を組み合わせると、おこづかいを主たる収入源とする者で、おこづかいの額になんらかの不満を持つものは27.6%で、大半の者がおこづかいの額に不満を持っているかあるいはおこづかいをもらっていないものが大半を占めている（合わせて57.4%）。

なお、その他を主たる収入源とする者のなかで、おこづかいをもらっていないと答えた者が56.4%いた。括弧書きで具体的にその他の収入は何かを書いてもらったところ、貯金や不定期に親からもらうお金であると答えるものがあった。これは、学生たちには、おこづかいという定期的に親からもらうものであるというイメージがあり、不定期に親からもらったお金、例えばお年玉などは「臨時収入」であっておこづかいではなく、また、おこづかいとしてもらっていても、つかわずにしばらくおいておけばそれは「貯金」であって、おこづかいではないという認識が生まれるのではないのではないだろうか。

(4) 10. あなたが1カ月に得るお金の主な収入源は次のどれですか。

13. あなたは、次にあげる項目それぞれについてどのくらいお金をつかいますか。

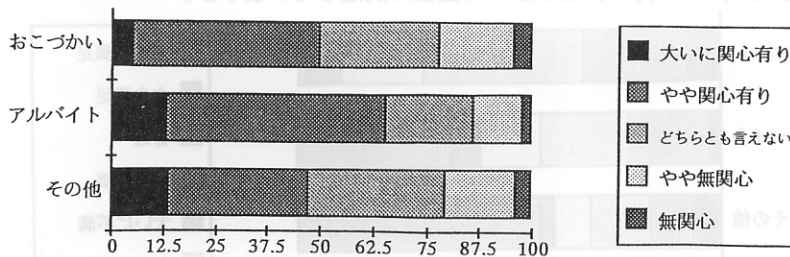
交通費（車・バイクの維持費を含む）



質問10と質問13を組み合わせ、お金の使い道について項目毎に聞いてみたが、収入源によってお金の使い道が大きく変わるものではなかった。ただ、アルバイトをしている者は、交通費（車・バイクの維持費を含む）によくつかうという者の割合が42.7%と多かった。親が子どもに車などを買い与える条件として、車体は親が買うけれども維持費は子どもが自分で賄うことを条件とするような場合をよく聞かすが、本学の学生もこの場合が当てはまるのではないだろうか。

(5) 10. あなたが1カ月に得るお金の主な収入源は次のどれですか。

14. あなたは、あなた自身が流行に関心がある方だと思いますか、それとも関心がない方だと思いますか。



質問10と質問14を関連させると、アルバイトを主たる収入源とする者の方が流行には関心があることがわかる。流行の物を購入するために、アルバイトが必要となるのかもしれない。

おわりに

本論においては、タイトルに示したとおり、本学学生の生活実態調査として、特に消費行動の実態に着目して研究を行った。得られた結果について、ここで今一度振り返るだけの紙幅がないので一言だけ述べるならば、本学学生の属性による均一性を指摘することができるであろう。それぞれの調査項目について、学科・学年・居住形態等の学生の属性で比較した結果、それぞれの属性のなかでの分布は非常に似通っている場合が多く、顕著な差がでてくる場合が少なかった。今後は、さらに多角的に調査項目を検討することによって有為な差をみいだすことができるだろうが、この点についてはこれからの課題としたい。

参考文献

経済企画庁国民生活局消費者行政第一課、『消費者教育への提言』，大蔵省印刷局，1990年。

高松短期大学研究紀要

第 24 号

平成6年1月31日 印刷
平成6年1月31日 発行

編集発行 高松短期大学
〒761-01 高松市春日町960番地
TEL(0878)41-3255
FAX(0878)41-3064

印刷 高東印刷株式会社
高松市東山崎町596番地